



「ブラジルの村の風景」Frans Post フランス・ポスト
17世紀前半

ポストはブラジルを描いた欧州初の画家。ブラジル北東、オランダ統治下のペルマンブックの景色と想定される。彼が描いた34点の景色のうち8点をルーヴルが所蔵。キャンバス、油彩 112×145cm

LOUVRE MAP * 3F・リシュリユ



「勝利の聖母」
Andrea Mantegna

アンドレア・マンテーニャ
1497年

マントヴァ公フランチェスコ・ゴンザーグがサンタ・マリア・デ・ラ・ヴィットリアの礼拝堂へ奉納するために依頼。聖母の左右に発注者夫妻の姿も描かれている。キャンバス、油彩 285×168cm

LOUVRE MAP * 2F・ドゥノン

©Photo RMN/Jean-Gilles Berziz/distributed by DNPAC



Patrick Blanc

10代の頃から興味がつり、植物学者に。専門は熱帯地方の植物。カルティエ財団、パーシング・オール・ホテル、ケ・ブランリー美術館などの「垂直の庭」の制作でも有名。3月4日までEDF ES PACE ELECTRAにて「植物の狂気」展を開催中。

my point of view

01

パトリック・ブラン

植物学者

絵画の中に読み取る、画家の理想と幻想。

アカデミックな解説はガイド本にお任せ。作品を前にしたとき、その道のプロである13人はどんな審美眼を発揮するか。それはルーヴルの新しい道しるべだ。

ルーヴル作品を、プロの審美眼で楽しむ。

熱帯地方の植物に詳しいブラン。彼の目が反応したのは、17世紀のブラジルを描いたポストの作品だ。「手形の葉をつけているのはセルコピア。アメリカの熱帯地方特有の樹で、上手く描かれています。樹の上部に葉がかたまっているのが普通なので、下4枚は余分ですがね。ココナツの樹はあまり忠実に描かれてない。葉の丈が足りません。左手下のヤシは、樹の上方が南京虫の拠点なんですよ」。さすが植物学者ならではの分析は、まだまだ続く。

芸術の裏に隠れている、人間の力に迫る。

「自然の景色そのままではなく、南米の代表的な樹を4種描き込んだようです。森はかなり開墾されていて、人も多そう。実は食用、幹は建築、葉は屋根にとヤシは有益な樹だ。手前のはパイナップルのよう。野生なら森の中の明るい岩場に育つけど、これは実のサイズもかなり大きく、人間が改良を重ねていることを物語っていますよ」
絵画とはいえ、ブランの植物に関する知識は細部にも目が届く。プーシェの「森」を「これはさまざまな土地の